

第4学年 社会科学習指導略案

教科等	社会科	単元名	ゆたかな自然を守り 生かす小笠原村	本時	全10時間扱いの2時間目
学級	4年2組	授業者		教室等	3階 4年2組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 小笠原村の自然環境の様子について考え、学習問題とそれに対する予想を立て、学習の見通しをもつことができる。					
導入	主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C			○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD	
	1. 前時の学習を振り返り、小笠原村の概要と自然環境について確認する。 T:小笠原村はどんなところだったかな。 C:船で2 4時間もかかる遠い島だったよ。 C:珍しい生き物がたくさんいたね。 C:観光客が増えているんだよね。			□前時に活用した小笠原村のPR動画や写真等を用意し、これまでの学習を振り返りやすくし、見通しをもたせる。 ※視覚化	
	2. 疑問や調べたいことを整理して、学習問題を見いだす。 【発見】 C:小笠原村の人々の暮らしは、どのような様子かな。 C:自然を生かしたまちづくりをしているのではないかな。 C:自然を守る取組をしているのではないかな。			□前時に児童から出された疑問や調べたいことを基に、学習問題を見いだす。 ○話題設定の工夫 資料と既習事項から立てた予想を交流することで、小笠原村への興味・関心を深められるようにする。	
	小笠原村の人々は、どのようなまちづくりをしているのだろう。			□予想が立てづらい児童については、具体的な声掛けを行い、自分の考えをもてるようにする。	
展開	3. 資料をもとに、気付いたことを話し合う。(ペア) 【対話】 T:資料を見て、人々の暮らしや自然とのかかわりについて気付いたことをペアで話し合いましょう。 C:海を生かしたまちづくりをしていると思うよ。イルカと人が泳いでいる写真から、イルカと泳ぐ体験をできるようにしているのではないかな。 C:森の自然を生かしたまちづくりをしていると思うよ。スーパーの写真にパッションフルーツが写っているから、珍しいフルーツを栽培して出荷しているのかな。			○交流の目的と視点の明確化 学習問題に対する予想を立てるにあたり、友達と協力して資料の情報を読んで考えていくようにし、「自分自身の予想を深めたり広げたりすること」を目的とする。意見を交流する際には、「資料のどこからそのことが考えられるのか」と「互いの考えを聞いて、それらをつなげたり、広げたりしていくこと」を視点とする。	
	4. 資料をもとに、気付いたことを話し合う。(グループ) 【対話】 T:資料を見て、気付いたことをグループで共有しましょう。 C:子供たちに島の歴史を伝えているのではないかな。これから大人になる子供たちにも島の良さを伝えて、ずっと住み続けてほしいと思っていると思うよ。 C:島の自然を守る取組していると思うよ。 島民みんなで力を合わせて、島の自然を大切に守ろうとしているのではないかな。			○意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定 4人グループで交流活動を設定する。友達の考えを聞いたり、自分の考えを受容してもらったりする経験を通して、より活発な全体交流を行うことができるようにする。	

終末	5. 話し合ったことや、学級で共有したことをもとに、学習問題に対する自分の予想を書く。【表現】 □自分の考えに友達の考えをつけ足したり、考えを変えたりしてもよいことを改めて確認し、安心して取り組めるようにする。 ☆学習問題に対して資料を基に、根拠を付けて予想している。 (発言・ノート) ※焦点化
----	--

【板書計画】



【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

本時では、学習問題に対する予想の部分話し合いの話題とする。資料と既習事項から考えた予想を交流することで、小笠原村への興味・関心を深められるようにする。

(2) 「学び合う」ための手立て

交流の目的と視点の明確化

学習問題に対する予想を立てるにあたり、友達と協力して資料の情報を読んで考えていくことで、「自分自身の予想を深めたり広げたりすること」を目的とする。意見を交流する際には、「資料のどこからそのことが考えられるのか」と「互いの考えを聞いて、それらをつなげたえい、広げたりしていくこと」を視点とする。

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

日頃の児童の学校生活での人間関係や相性を考慮してグルーピングする。友達の考えを聞いたり、自分の考えを受容してもらったりする経験を通して、自分の考えに自信がもてるようにする。